



<道しるべ>

自分の足で歩けること、おいしく
食事ができること、
痛みなく睡眠がとれること
病気になると、
それだけでも十分に幸せだと気づ
きます。
人間最大の不幸は、自分が幸せだ
と気づかないことです。

<学校教育目標>

自ら学び 自他を尊重し
心豊かでたくましい生徒の育成

<重点目標（スローガン）>

感謝+優しさ=笑顔と幸せへの道

発行：長崎市立丸尾中学校

文責：校長 川口 猛

令和8年10月9日（金）NO29

学力の向上に向けて

本号は届くのは、10月9日（金）。皆さんの中には、この日はどのような日になっていいるでしょうか？この通信を書いているのが、10月6日（火）夜ですので、その日にちから想像するに、おくんちの最終日？でしょうか。おくんちも、別に悪い行事ではないのです。長崎の伝統を伝える踊り町の文化を観ることができる期間です。まさか、出店だけを回るということはないですよね・・・

さて、本題です。今週末は、前期の成績を皆さんに渡す日です。そう伝えと、ネガティブな気持ちになる人も多いのではないのでしょうか？

通知表をネガティブに見るのではなくて、自分のこれまでの取組を振り返る材料としてほしいと思います。振り返るポイントを今思いつく順にあげてみましょう。

- 『早寝、早起き、朝ごはん』という視点
- 『ネットの時間は？』という視点
- 『時間を守る』という視点
- 『必要なものは準備ができる』という視点
- 『心清らかに、授業に臨むことができたか？』という視点
- 『授業中の指示に素直に従って授業に取り組んだか』という視点
- 『記入すべきところには記入し、考えて書くところには、考えて少しでも表現することに務めたか』という視点
- 『定期テストはもちろんのこと、小テストなど、小さなハードルに対し、それを超えようと努力を積み重ねたか』という視点
- 『提出物を出すことは最低限度として、提出物の内容に取組の努力の跡が自分で見た時にわかるか』という視点
- 『もらったプリントを綴じるなり、貼るなり、整理ができたか？』という視点
- 『キュービナ』を週末に活用したかという視点
- 『途中の計算式を書いたり、大事なところだと後でわかるように書いたかなど、書くことに対してまじめに取り組んだか』という視点
- 『音読して、教材を読むことができたか』という視点
- 『自律ができたか？（自分で自分を律するできたか）』という視点
- 『テストの後の訂正ノート、機械的に作るのではなく、できなかったところをできるようになろうと思ってつくったか？』という視点
- 『学力と生活面は切っても切り離すことができないと意識して、前向きに、まじめに、素直に生活することができたか？』という視点

たくさん上げましたが、自分なりにこの通過点を、『自分を変えるキーポイント』にしてほしいと思います。自分を変えるキーポイント=chance（チャンス）です。変わるのだから、それはchange（チェンジ）です。しかし黙っていても変わらない。そこに何かプラス（+）になることにtryしなきゃいけない。それが、challenge（チャレンジ）です。聞き覚えありますよね・・・学力向上！大事です！

学力向上に向けて、丸尾中学校が取り組むプランを作成しました。令和8年度学力向上プランです。各種学力検査等をもとに、本校生徒の実態と、検査の考察を基にして、作成しています。

各ご家庭でも閲覧いただき、学ぶ力を主体的に獲得していくために、どのような支援が子供一人一人に必要なのかをお考えいただきながら、学校と家庭で協力しながら、学力向上の道を歩んでいきましょう。本日は、通知表をお渡しいたしましたが、単に数値にとらわれることなく、総合的な学習の時間の評価や、行動に係る評価なども参考にしながら、ポジティブに今後のことを話し合っていただく機会にしてほしいと願っています。よろしくお願い申し上げます。

令和8年度 長崎市立丸尾中学校 学力向上プラン

令和8年度 丸尾中学校 学校経営方針(全体構造図) ★年間重点目標:『感謝+優しさ=笑顔と幸せへの道』

○学力向上(わかる授業と規律)・・・授業規律の凡事徹底 個に応じた丁寧な指導・準備連絡 協働的学びと達成感の積み重ね

○規範意識・「感謝・優しさ」・・・心を通わせる「挨拶指導」「ありがとう」が響く集団づくり 組織的対応と個別の寄り添い

○教師の姿勢・職場環境改善・・・信頼に応える教師の姿 校務分掌の機能回復と業務改善 地域・保護者との真摯な連携

R7到達目標 ○学力調査 県平均正答率との全教科平均の差 **-1.0 以上⇒0.62 達成** ○休日のメディアの使用時間が8時間以上の生徒の割合 **10%未満⇒2.4%達成**

校内研究 研究の柱

長崎県「学びの習慣化メソッド」
『学びに向かう力』を身に付けた子供の具体的な姿』

- 「主」:主体的に学ぶ態度
- ・楽しみながら、学びを進めている等
- 「律」:自分を律する力
- ・時間を考えて行動する等
- 「客」:自分を客観的に把握する力
- ・学習内容の理解度を認識する
- ・学習内容や方法を見直し、修正する等
- 「関」:よりよい生活や人間関係をつくろうとする態度
- ・自分の夢や目標を意識しながら生活する等

夢に向かって支え合い努力する生徒の育成
～視点を明確にした学習指導の工夫と生活指導を通して～

実践項目

- (1)長崎市協働型学力向上プロジェクト2班の研究テーマ「対話的な学び」に沿った全職員によるオープン授業の実施(年9回)
- (2)代表職員による研究授業及び授業研究会の実施(年1回)
- (3)読解力・表現力の向上を目指した「読みトレ」の実践と事後指導(週1回)
- (4)「学力調査結果分析シート」を活用した改善策の設定と実践
- (5)メディアの使用状況と家庭学習に関する生活調査(年5回)、メディア講演会(年1回)、PTAとの連携の強化(年2回)の実施

<生徒の実態>

- ・素直な生徒が多い。
- ・家庭におけるメディアの過度な使用による家庭学習不足や睡眠不足等が影響し、授業に集中できない生徒が見られる。

<学力調査結果>

- ・一部の教科を除き、学力調査で県の平均正答率を下回っているものの、正答率の平均は年を追うごとに改善してきた。
(R6:-3.12⇒R7:-2.14⇒R8:0.62)
- ・思考力・判断力・表現力を問われる問題、特に「書くこと」の領域において、自分の考えを明確にして表現することに課題がある。
- ・1,2年次の基礎的・基本的な既習事項が身についていない生徒が多い。

R8到達目標

○学力調査 県平均正答率との全教科平均の差 **1.0 以上**

○休日のメディアの使用時間が8時間以上の生徒の割合 **2%未満**